

<プログラムのハイライト>

●特別講演 1 (10月28日 11:00~12:00)

水晶体被ばく線量の測定が始まりました。予防規程の改正等を行い各事業所では改正法令下での規制が始まっています。コロナ禍における対応や今後の運用が気になるところです。最新の放射線規制の動向を原子力規制庁の放射線規制部門の担当官の方に解説いただきます。

●特別講演 2 (10月29日 11:10~12:10)

平成28年4月に熊本地震が発生して5年、被災地の復興を進める中、令和2年7月豪雨による河川の氾濫や土砂災害によって、熊本県南地域を中心に再び甚大な被害に見舞われました。熊本地震から5年、その現状とわかったことについて熊本大学の松田博貴先生にご講演いただきます。現状及び今後の減災対策についても併せて紹介いただく予定です。

●特別講演 3 (10月29日 13:00~14:00)

熊本大学の岡田誠治先生は、熊本大学エイズ学研究センターにおいて「エイズの病態解析とワクチン等の治療法の開発」を目的に研究活動を始められました。本講演では「超免疫不全マウスの生命科学研究への活用」と題して、最新のウイルス疾患・自己免疫病等の研究成果を、放射性物質を利用した研究についても織り交ぜながらご紹介いただきます。

●シンポジウム 1 (10月28日 13:10~14:50)

「福島原発事故から10年 その現状とわかったこと」というテーマでご講演いただきます。まず、事故後の除染とその効果、除染廃棄物の中間貯蔵施設での現状紹介。続いて、環境中に放出された放射性物質の農作物等への移行とそれによる人体影響についての最新研究紹介。さらに、福島原発施設内での、処理水の現状と被ばく低減の対策について、それぞれ紹介いただきます。放射線安全管理者の目線から正しい情報を習得したいと思います。

●シンポジウム 2 (10月28日 15:00~17:00、10月29日 14:10~16:10)

ポスター発表として実施してきた放射線安全管理に係る事例紹介等を、Web大会であることから口頭発表で実施します。各事業所で行われているコロナ禍における放射線安全管理や法令改正に対する対応事例等を紹介いただき、ノウハウの共有あるいは共同開発のきっかけとなることを期待しています。ポスター発表で実施していた部会の報告事項等(分科会、専門委員会、支部等)についても同様に2日目で行います。発表の中からチャレンジング賞を選考し、閉会時に発表します。

●シンポジウム 3 (10月29日 9:30~11:00)

企画専門委員会企画:「放射線施設・設備に関する知識の伝承」シリーズとして、アイソトープニュースの主任者コーナーに連載された話題から、「知識の伝承—放射線施設のライフプラン—」として放射線施設の新築、改築、廃止に関する事例を紹介していただきます。シンポジウムでは、紙面で紹介できなかった事例も含めて経験談を紹介していただく予定です。

●相談コーナー (10月28日 12:00~13:00、10月29日 12:10~13:00)

放射線管理業務における疑問やお困りごとなどについて、個室にてご相談をお受けいたします。事前申込制で、放射線管理・安全取扱、法令、RI供給・廃棄など幅広い分野に対応できます。

●Web 交流会 (10月28日 17:30~19:00)

参加者が一堂に会し、情報交換を行うことができます。ブレイクアウトルームを利用して、特定のグループ(各支部、分科会等)での利用も可能です(グループは事前登録制)。

●機器展示

年次大会サイトのトップページに放射線関連サービス会社、製品メーカーによるバナー広告等を掲載します。各企業の最新情報を知ることができる貴重な機会です。